

今日は食事についてお話ししましょう。

私が食べた中で日本とそっくりなものがあった。お菓子ではいろいろ、蒸しケーキ(パン) この蒸しケーキは神様へのささげ物として、お寺に行くときには蓋つきの草で編んだ箱に入れて頭に載せて持参する。バウムクーヘンそっくりなラピスと呼ばれているものはおいしい。インスタントの塩ラーメンに全く同じと思うものもあった。

私が滞在したホストファミリーの息子さんの誕生日の朝は黄色いライスが出た。これは日本でいうお



赤飯と同じ意味だそう。その夜はバナナの葉に包まれた混ぜご飯がでたが、(私は辛いものが苦手なので食べなかった)

一緒にいた京都の大学生は「今までの中で一番からい」と悲鳴を上げていた。しかし基本的にはあまり辛い。

お豆腐は日本の木綿をもっと固くしたもの。果物を除いて基本的には煮込んだり、油で揚げたり、炒めたりしている。

生では食べない。だしを使わない分、おいしいときも、塩辛いときもある。マヨネーズは食べないようで、私のために一回、わざわざ

買ってくれた。久しぶりのマヨネーズのおいしかったこと！

肉は鶏肉が多いが、バリはヒンズー教なので豚や牛肉も食べられる。これも私には助かったことです。魚は焼くことが多いが、あまり好みではない。

デンパサールについて

街全体が汚い。人口が多く、庶民の足であるバイクでも移動が多いのでうるさい。

個人商店は間口が狭く、奥行きがある。きれいにしようという意識はないので、暇でも店先に座っているだけ。

その反面、活気にあふれている。フランスからの大きなスーパーマーケット(カラフル) より、古いマーケットの方が 客が多い。そこでお供え用の花が売られている。

街中では花を全く見かけない。どの家も樹木はたくさんある。花は郊外で栽培されているとのこと。今、私はUBUDにいます。学校が1週間お休みでバンガローにいます。

繁華街から徒歩で20分くらい。二階の私の部屋のテラスからは目の前に椰子の木、バナナの木が茂り、その下の草原では鶏が草を喰らっています。その先には小川があって、たぶん野良仕事帰りの女がその川で洗濯を、男や子は

水浴びをしています。それらを極上の風が通り過ぎていきます。天然の風はエアコンのそれとは雲泥の差で気持ちよく、ここに来て初めて幸せだと思いました。

部屋は蚊帳つきの天蓋ベッド、ロフトつきで、そこには格子はあるものの、ガラスは入っていません。だから薄手の毛布だけでは肌寒いくらいです。早朝、鶏の鳴き声と、水が湧き出してくるようなイメージの美しい鳥の鳴き声で目が覚めます。夜は蛙や虫の大合唱。小川のせせらぎも聞こえてきます。

こんな贅沢感に浸って、1日一部屋2500円(私はガイドドライバーが交渉してくれて2000円)

UBUDは芸術の村と言われています。王宮前の広場でREGONダンスを観てきました。他の地区で見たケチャや、他の種類のダンスとは格段に違いました。やはり観るならいいものを観なければ損です。1時間半で800円です。

さて、次回はデンパサールに戻り、コス(アパート)暮らしを一ヶ月するので、その報告をしましょう。